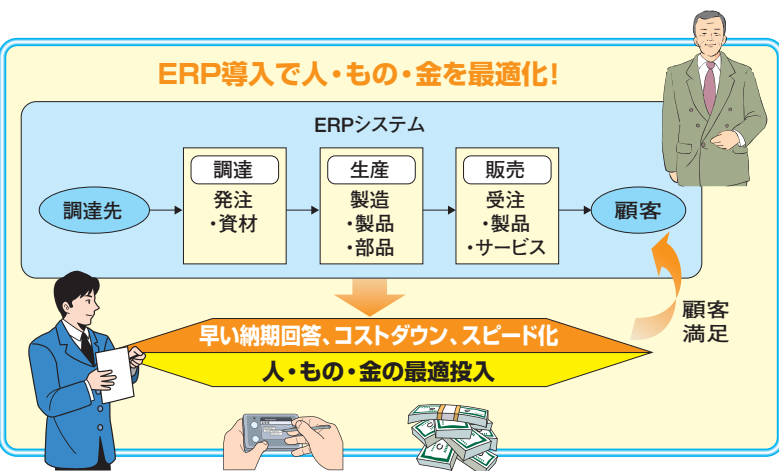


Q & A あなたの疑問に答えます

図のような典型的な製造業の場合を考えてみましょう。「調達先」からの資材「調達」→部品・製品の製造・組立てなどの「生産」→受注などの「販売」→「顧客」への商品の「配送」という一連の活動があります。

これらの活動のつながりに無駄や非効率が発生すると経営上の問題を起こすことがあります。またそれぞれの活動の実態を把握できずにいると、問題発生時に適切な手が打てないという事態につながります。

ERPとは、こうした問題を解決し、企業全体の人・もの・金といった経営資源の投入と運用を最適に行



これはERPシステムを作成、運用するためにソフトウェア業者が提供するソフトウェア製品を指します。具体的には、調達、生産、販売、会計、人事など企業の基幹業務（それがなければ企業そのものが成り立たない業務）のうち、複数の業務をカバーするもので、ERPパッケージの導入で、企業は低コストかつ短期間にERPを実現することが可能になります。通常、日本で「ERPの導入」というと事実上「ERPパッケージの導入」と同意義になりますので、ここからはその前提で話を進めます。

■メリットはリアルタイム性

ERPパッケージは、通常、生産、販売、会計といった業務単位のシステムを連携させて、それぞれのデータを一つのデータベース（データを収集・管理するシステム）に一元化します。この意味での「情報の統合」が企業に様々なメリットを生み出すのです。

顧客からの受注処理を考えてみましょう。生産や販売といったシステムがあっても、連携されておらずデータが別に保存されていたのであれば、同じ受注データを何回も入力したり

ERPは経営資源を最適化し運用するための経営手法である。ERPシステム導入にはERPパッケージを利用することが多い。ERP導入によって、受注・調達・生産・販売、在庫管理などが連携し、納期短縮やリアルタイム経営が実現可能になる。

倉石英二
http://www.juasor.jp/isc/itcg/itc.html

（回答：ITコーディネータ
JUAS-ISC／ITCの会
http://www.juasor.jp/isc/itcg/itc.html

倉石英二）

ERP（Enterprise Resource Planning）を理解するには「ERPパッケージ」の3段階で捉えることがよいと思います。

まず「ERPそのもの」の概念です。図のような典型的な製造業の場合を考えてみましょう。「調達先」からの資材「調達」→部品・製品の製造・組立てなどの「生産」→受注などの「販売」→「顧客」への商品の「配送」という一連の活動があります。

これらの活動のつながりに無駄や非効率が発生すると経営上の問題を起こすことがあります。またそれぞれの活動の実態を把握できずにいると、問題発生時に適切な手が打てないという事態につながります。

ERPとは、こうした問題を解決し、企業全体の人・もの・金といった経営資源の投入と運用を最適に行

Q2 ERPが良くわかりません。情報を統合すると聞きましたが、どんな効果があるのでしょうか。

ERP（Enterprise Resource Planning）

うための経営手法なのです。そして、このような「ERPの概念」を実現するために企業内で動かす企業情報システムを「ERPシステム」と呼んでいます。

さらに「ERPパッケージ」ですが、

情報システムは、日常業務の運用開始によって投資の効果がでてきます。また、情報化の目的は業務改革ですから、担当者は情報システムを構築するだけでなく、業務改革の推進や定着までの経営戦略を実現化する。

■求められる多様な能力

したがって専任者は必ずしも情報システムの専門家でなくてもかまいません。経営戦略課題を理解し、課題解決のプロジェクトを推進できる人材がいれば情報化と業務改革は可能です。特徴を整理してみましょう。

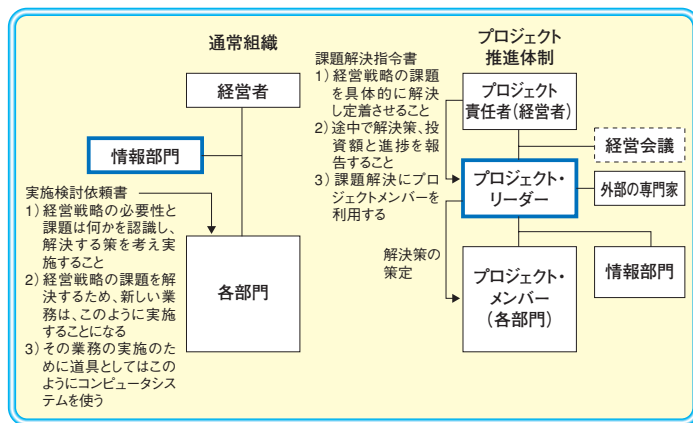
Q1 従業員80人の製造業です。情報システムの専任者を置くつもりですが、どんな人物が適任でしょうか。

従業員が100名以下

の事業所の場合、とくに製造業であれば事務所のスタッフは数名という会社が多いでしょう。その中から人材を割くのですから現状業務への影響も想定しながら選びたいものです。

にすることが必要です。

人員的に余裕があれば情報システムの専任者と業務改革の専任者の二人を置きたいところですが、中小企業では、業務の規模や人的な制約により、一人で全てを担当することになるでしょう。



○経営者の信頼があり、経営戦略の必要性や課題を理解している。

システム構築の場面では、経営者の立てた戦略を理解しなければなりませんから、経営者の思考についていける程度の知識・経験が必要です。顧客からのクレームに会社を代表して謝罪に奔走したなどの経験がある人なら、顧客満足や品質の向上活動が経営戦略で重要であることや問題解決の必要性を誰より理解していると言えます。

○業務を熟知しており、各部門の協力が得られる力と経験を持つ

システムを使うのは現場の社員ですから、システム構築時には業務内容に合っているかどうかの判断、導入時にはスムーズに活用されるための指導や説得が必要です。つまり、商品開発、営業および製造の業務を熟知しており、課題解決の必要性を説得する力があり、各部門の協力を得られる人望が求められます。

○プロジェクトリーダーの経験がある。

システムは商品を製造するわけではなく、業務改革を目的とした社内の大規模なプロジェクトです。そのため、目標達成への熱意があり、プロジェクトのメンバーを引っ張る力があるとともに良いでしょう。過去のプロジェクトで成功を収めているなどの経験は有効です。

（回答：ITコーディネータ

ITC埼玉 <http://itcf2web.com/>

杉中恒彦

情報システム担当者は、経営戦略を理解できることが第一。システム導入を成功させるためには、さらに、自社業務に対する知識やプロジェクト推進能力が求められる。